

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様

第 17 号

1994年 9 月

岡山県古代吉備文化財センター

開所十周年を迎えて

所 長 河 本 清



岡山県古代文化財センターが発足して今秋で10周年を迎えることになりました。当初、総務課・調査課の各一課で出発した組織体制は、その後の急激な発掘調査量の増大に伴い、職員は大幅に増員され、平成6年9月現在で総務課一係、調査課三課七係で職員総数69名になります。この間、山陽自動車道をはじめ岡山県立大学など、県政の重要な施策に係る事業をはじめ、各種の国・県事業に伴う発掘調査を手がけてまいりました。因みに昭和60年から今年度調査予定を含めた発掘総面積は、75万平方メートルに達します。

また、年々増加する出土遺物につきましては、保存管理の見直しを図り、基本的には地域の歴史資料として活用をはかるべく関係市町村へ移管を進めることとしながらも、当面の収蔵管理については、センター本館の収蔵能力に限界をきたしたため、新たに収蔵庫の建設をお願いし、平成4年7月にその完成をみました。

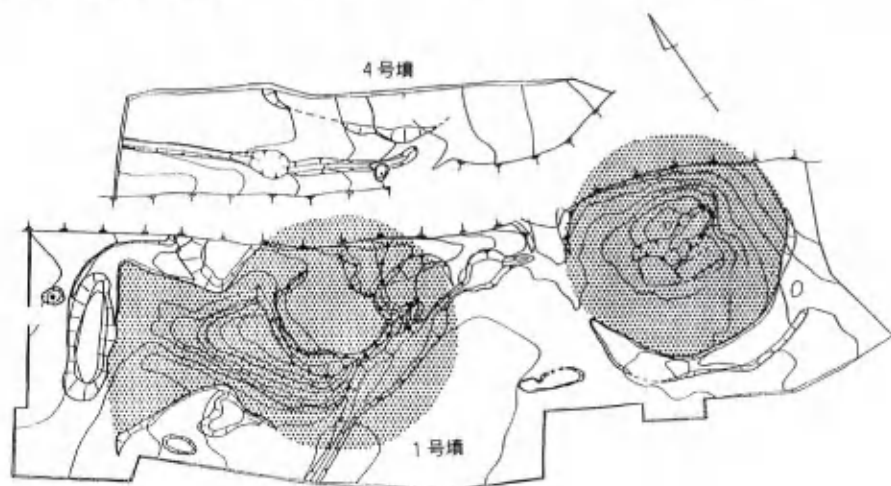
埋蔵文化財の保護・保存についての普及啓発に関しては、毎年春になると、小・中学生の遠足コースとしてセンターの見学が定着するなどの状況に加えて、発掘調査現場での現地説明会の開催や、市町村と連携した埋蔵文化財発掘調査概要の報告会などを通じて、県民の理解を得るように努めてまいりました。

この10年を節目として、また新たな気持ちで遺跡・遺物の保護・保存に取り組みたいと考えています。

おわりにあたりまして、この十年間の発掘調査・研究・遺跡の保存及び施設の充実などに御指導・御支援をいただいた関係機関ならびに関係者各位にお礼申し上げますとともに、今後とも当センターの発展のために一層の御尽力を賜われれば幸いに存じます。

最近の発掘調査から

古墳時代後期の前方後円墳 ～英田郡美作町大年古墳群～



大年古墳群古墳全体図 (S=1:400)

大年古墳群は英田郡美作町上相に所在し、ふるさと農道美勝線建設工事に先立って今年度4月中旬から3カ月間発掘調査を実施しました。

当初3基の円墳からなる古墳群と考えられていましたが、調査の結果、前方後円墳を含む4基の古墳が存在し、いずれも著しく破壊されていることがわかりました。

発掘調査は1・2・4号について実施しました。

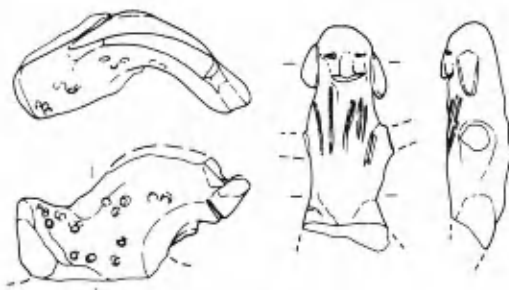
1号墳は6世紀中頃に造られた復元全長18.5mの前方後円墳です。埋葬施設は破壊されましたが周辺から装飾付須恵器片や須恵器の甕、高坏等が出土しました。また、前方部前端の周

堀中からは、大量の鉄滓、炉壁と共に7世紀中葉頃の須恵器大甕が人為的に割られた状況で出土しており、周堀での祖先祭祀を考える上で重要です。

2号墳は6世紀後葉に造られた直径約12mの円墳で木棺直葬の埋葬施設を持ち、中に鉄鍔8、鉄製刀子1、ガラス小玉52、碧玉製管玉13、ミニチュア須恵器等が入っていました。

4号墳は周堀の調査のみで墳形は不明ですが、鉄滓と7世紀の須恵器長頸壺が出土しています。

今回の調査で、この地域での鉄生産にかかわる集団とその古墳祭祀について考える貴重な手掛かりを得る事ができました。(杉山一雄)



1号墳出土の装飾付須恵器の猪と人の小像 (S=1/2)



現地説明会の様子 (6月25日)

こなか 小中遺跡の発掘調査

小中遺跡は、勝田郡勝央町岡に所在する弥生時代の大きな集落遺跡です。現在発掘調査しているのは、岡山県が計画を推進する「おかやまファーマーズ・マーケット」建設に伴うものです。小中遺跡の発掘調査は、昭和47年に中国自動車道（当時は中国縦貫道と呼んでいた。）建設に伴って実施され、すでに報告書が岡山県教育委員会から刊行されています。これによって遺跡は中国自動車道の南北にもかなりの広がることが予測できました。

県の用地取得が終わり、設計図中の開発にかかる部分の遺跡範囲確認と、周知および新規発見の古墳などの保存協議の基礎資料を得るため平成5年に確認調査を行いました。その結果、全面調査の必要な面積・範囲が決まり、10月から4区に分割して調査を開始しています。

平成5年度の全面調査では、1区から3区の3120㎡の範囲を発掘し、縄文時代の落とし穴3基・弥生時代中期から後期の竪穴住居10軒・同後期の段状遺構4基・掘立柱建物7棟・古墳時代後期の土壙墓1基・中世の古道1条などを検出し、遺物は弥生土器・土師器・須恵器など整理箱に約50箱出土しています。

平成6年度の全面調査は、1区10000㎡と4区4400㎡の合計14400㎡の範囲を発掘する予定で、9月末現在では弥生時代中期から後期の竪穴住居30軒・同後期の段状遺構5基・掘立柱建物15棟・古墳時代後期の古墳2基（白澄1・2号墳）・中世の土壙墓5基・古道5条などを検出し、遺物としては弥生土器・土師器・須恵

器・石器・鉄器・玉類など整理箱に50箱ほど出土しています。

写真1・2は小中遺跡1区で多数検出された竪穴住居の代表的なものです。本遺跡の竪穴住居は平面形が円形・隅丸方形・方形・多角形の4種類が見られます。これが時期の違いを示すものかどうかは今後の検討課題です。たいていの竪穴住居が何度かの建て替えをしており、複雑な調査となりました。中央穴から斜面下方の住居外に長く伸びる溝が用途・目的が不明ですが、この地方の住居の特徴のようです。

写真3は白澄1号墳の全景です。この古墳は確認調査により発見されたもので、開発設計上記録保存の措置がとられました。横穴式石室を持つ円墳で、山側に周堀があり、天井石および墳丘盛り土は当初から流失していました。石室内部は大変攪乱していましたが、閉塞石と最終埋葬の木棺の釘は原位置に残存していたようです。須恵器・耳環が出土しています。（浅倉秀昭）



写真1 1G区No1 竪穴住居

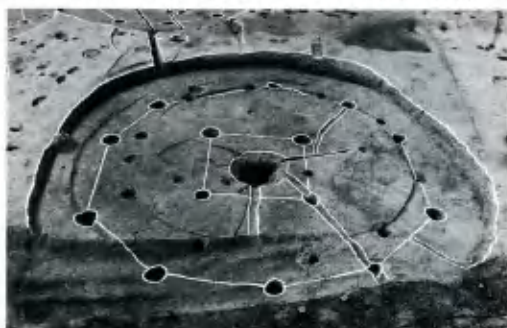


写真2 1GNo4 竪穴住居



写真3 白澄1号墳全景

おおだちや
津山市大田茶屋遺跡出土の奈良時代建物群

大田茶屋遺跡は津山市街地北方の北東から南西に伸びた丘陵の先端に立地しています。県酪農試験場跡地内の遺跡確認調査で発見されました。昨年、遺跡の北半分が調査され、縄文時代晩期の土壙や弥生時代中期・後期の集落、さらに中世の村や近世の墓地と屋敷の跡が発掘されました。今年の南半分の調査では奈良時代の国の施設の跡が検出され、注目されています。

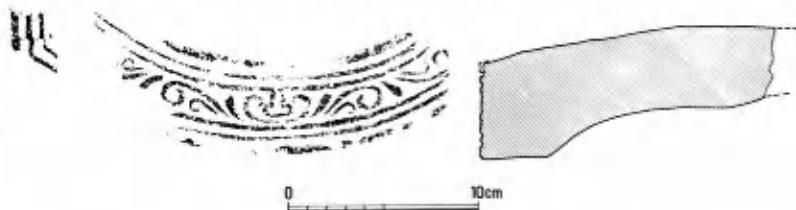
調査によって見つかった数百の柱穴のなかには直径80cmを超えるものが含まれていました。遺物や方形に近い平面形などから、大形の柱穴は奈良時代と考えてよいと思われます。大田茶屋遺跡では現在までに奈良時代の建物が17棟見つかっていますが、位置関係や棟の方向から建物群は新旧の二時期に分けられるようです。

古い時期の建物群は方位を意識していたようで、棟の方向が東西か南北に近くなっていました。9棟ほど建物があったようです。1棟は5m×12.5mの大きさの南北棟の建物で、丘陵の最先端に建っていました。この建物から40mほど北に離れた丘陵の南東斜面では、4.5m×11.3mの規模の東西棟の建物が見つかりました。この東西棟の建物があった位置には6m×7mの建物が時期を前後させて建ち、その東西両側には塀があったとみられます。この建物の南東と南西には4m離れて3.2m×4mの小規模な建物が対称にあって、その床の中央には柱穴をもつことから倉庫だったと考えられます。

新しい建物群は地形に沿って建てられ、方位にはこだわっていません。丘陵の先端では尾根筋と直交する方向に建物が3棟並び、丘陵の南東斜面では、尾根筋と平行して2棟の細長い建物が続いています。このように、新しい建物群は「L」字の形に並べられ、丘陵頂部を取り囲むように配置されています。丘陵先端では、中央に4m×16mの建物、その両側には

4m×4mの建物が置かれるという、左右対称の配置になっています。南東斜面の建物は2棟ともに建物の重なりが認められ、建て替えられたことがわかりましたが、新旧は決めかねています。A期では、南の建物は4m×24mあり、東壁が南に8m、北に6m続いて塀になっていました。北の建物は4m×15.6mで、西の壁が8m南に延びて塀になっていました。B期では、南の建物は4m×26mで、塀は伴いませんでした。北の建物は5m×12mで、西の壁が南に8m、北に10m続いて塀になっていました。丘陵先端の中央の建物でも真ん中に柱穴列が見つかり、ここでも南東斜面の建物と対応して建て替えの行われたことが考えられます。新しい建物群は一つの区画を形作っていますが、南東斜面建物のさらに東でも柱穴列が2列並んで見つかり、出入口に関係した施設ではなかったかと思われます。

このような規格性をもった大規模な建物群は、公的な施設と考えるしかありません。遺跡から出土した下図の軒平瓦は美作国府と美作国分寺だけから出土した軒平瓦と同じ木型で作られていて、この遺跡が国の関係する施設である可能性を強く印象づけます。国の施設としては、国府・国分寺・正倉・駅家・軍団などがありますが、国府・国分寺はすでに所在地が確認され、正倉にしては倉が少なく、駅家では近くに街道がないため、軍団説が残されてきます。文献資料によれば、大田茶屋遺跡のある苫田郡に兵庫があったとされています。来年にかけて周辺で続けられる調査で、さらに有力な資料の出土することが期待されます。(岡本寛久)



大田茶屋遺跡出土の平城宮式軒平瓦 (S=1/4)

最近の調査成果から

百間川沢田遺跡出土の鳥形短剣状角製品

百間川遺跡群の発掘調査は、旭川放水路（百間川）改修工事に伴って1977年度から本格調査を実施し、今年で17年目を迎えています。これまでの調査で、縄文時代後期（約3000年前）から鎌倉時代頃にかけての、数多くの遺構・遺物が見つっていますが、今年3月、百間川沢田遺跡からあまり例を見ない鹿角製品が出土したので紹介します。

この製品は、沢田橋下流約500mの右岸低水路調査区に検出された旧河道（幅約17m、深さ約2mで、弥生時代後期の初めまでに埋没）の河底に形成された貝塚（約3×2.5m、厚さ約20cm・シジミが主体でほかにハイガイやヘナタリなどと堅果類の皮多数）の近くから見つかりました。貝塚とその周辺の河底の堆積土中には、主に突帯文土器（一部に爪形文が混じる）が含まれているので、この鹿角製品の時期は少なく



とも縄文時代晩期後半とみてよいと思われます。

この種の鹿角製品は、従来「叉状角製品」^{またしやうかく}とか「腰飾」^{こしかざり}などと呼ばれてきていますが、春成秀爾氏は総称して「有鉤短剣」^{ゆうこう}と呼び、その形態・型式によって数種類に分類しています。それに従えば、本製品は「鳥形短剣」に分類され、なかでは東京都千鳥久保出土の製品に類似しています。

しかし、多くの例が頭部中央に円孔をもち身部の削り込みが少ないのに対し、本例は半月形透かし孔をもつことや非常に細身になっている点などに違いがあります。また、類似例のほとんどが縄文時代中・後期に属し、その分布も関東・東北地方に限られるようで、本製品への系譜は今のところ不明です。（柳瀬昭彦）

参考文献：春成秀爾「鉤と雲」『国立歴史民俗博物館研究報告』第7集・本篇 1985. 3

今、センターでは？

文化財センターといえば、もっぱら屋外での発掘調査の話題が中心となりますが、幾人かの調査員は、出土品の整理や図面整理、さらに写真の整理・原稿の執筆と忙しい毎日をセンターで過ごしています。

このような専門の調査員以外には、発掘現場から運びこまれた土器の復元・接合や注記（出土した日付や地点を、直接土器に書き込む作業）を、黙々とこなす整理作業員の女性たちもいます。土器などの図面を描く実測作業は、報告書のなかでも遺跡の時代を知る上でとりわけ重要な部分を受け持っているわけですが、これも女性整理作業員の皆さんの力で膨大な記録が蓄積されつつあります。

土器以外の重要な遺物に、鉄や銅で作られた武器や工具あるいは、装身具などがあります。これらは、たいいてい錆（さび）で覆われていたり

して元の形や用途がわかりづらいものがあります。これらの錆を、歯医者で虫歯を削る時に使う機械で丹念に落とし、できるだけ当時の原形に戻す仕事も行なわれています。

また、水分の多い粘土層からは当時のままの形をとどめた木製品や遺構が発見されることがあります。たとえば、弥生時代の鍬（くわ）や鋤（すき）、あるいは、奈良時代の木組みの井戸やそこから出てきた櫛などです。これらを空気に触れたまま放置しておくと、あっという間に干からびてしまいます。そのため、木の中に含まれている水分を、時間をかけて特殊な薬品と入れ替えることによって、原形を保ち、貴重な文化財として後世に残す仕事も行なっています。

多くの人々が、色々な分野で緊密に協力して、センターの仕事が成り立っているのです。

普及啓発事業

「岡山県古代吉備文化財センター開設十周年記念講演会」開催のお知らせ

当センターは今秋、開所十周年を迎えます。これを記念して、下記の日程で「岡山県古代吉備文化財センター開設十周年記念講演会」を、岡山県郷土文化財団と共催で開催いたします。奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

1. 日時

平成6年11月26日(土)

午前10:00～午後3:00

2. 会場

岡山県立美術館（岡山市天神町）

（入場無料）

3. 構成

開会（10:00）

(1)平成5年度調査概要報告〈スライド〉：

文化財センター・市町村教委職員

（10:10～12:00）

①長縄手遺跡（備前市）

②平山古墳群他（山手村）

③中山6号墳（総社市）

④横寺遺跡（総社市）

(2)文化財センター10年の歩み〈スライド〉

：文化財センター職員

(3)記念講演（13:00～15:00）

田中 琢氏（奈良国立文化財研究所所長）

演題「農耕の開始と発展」

閉会（15:00）

☆ 上記の記念講演会にあわせ、「農耕の開始と発展」、「岡山県古代吉備文化財センターの紹介」、「最近の発掘調査から」の三部から成る、カラー12ページの資料パンフレットを作成中です。

記念講演の講師にお迎えする、田中 琢先生は1933年、滋賀県にお生まれになりました。京都大学文学部大学院修了後、奈良国立文化財研究所に入所され、本格的な発掘調査が開始された「平城宮跡」の発掘メンバーとして活躍されました。日本考古学史上画期的な発見となった木簡の出土にもおおいに貢献されました。

その後、埋蔵文化財センター長を経て1992年、文化庁文化財鑑査官、1994年から奈良国立文化財研究所に復帰され、現職でご活躍中です。土器や古鏡の研究では多大な業績をあげられていますが、考古学の在り方や埋蔵文化財の意義などにも折りに触れて鋭い問題提起をおこなってこられました。

一方で、地方公共団体の埋蔵文化財担当職員の仕事にも深い関心を寄せられ、著書「倭人争乱」では「いま、だれが考古学をささえているか」の項を設け、遺跡の保護と開発の狭間に倒れた、地方の一文化財保護主事についても触れておられます。

本県では1972年、当時全国的にもたいへん貴重な発見となり、地方の官衙遺跡発掘の先駆けともなった、久米町の宮尾遺跡（久米郡銜比定遺跡）の発掘調査の現地指導を受けたこともあります。

最近では、「考古学の散歩道」（共著）を著され、「日本人とは？日本文化とは？」、『生活環境と災害の情報』、『考古学を考え、考古学から考える』などの項目を柱に、「象牙とハンコ」、「キモノと装身具」、「日本のポンペイ」、「国際化とは—考古学の場合」、 「文化財保護の思想」など身近な話題のなかに、最新の発掘の成果や発見を取り入れ、広く一般市民にもわかりやすく好評を博しています。今後の御活躍が期待されます。

おもな著書—

『古鏡』（講談社）

『三角縁神獣鏡の謎』（共著、角川書店）

『平城宮』（岩波書店）

『倭人争乱』（集英社）

『考古学の散歩道』（共著、岩波書店）

『発掘を科学する』（共著、岩波書店；最新刊）

平成6年度『夏休み少年考古教室』

当センターでは、郷土の歴史の理解と埋蔵文化財の保護意識を高めることを目的として、小学校高学年の児童を対象に「夏休み少年考古教室」を毎年1回開催しています。

本年度はセンター開設10周年記念として、初めて参加者を公募しましたが、なかなか希望者が集まらず、応募者のほかに、岡山市立桃丘小学校に参加者募集のお願いをすることになりました。桃丘小学校の児童33名のほかには、岡山市立旭竜、鯉山、陵南、可知、南輝、中山、妹尾の各小学校および総社市立総社北小学校の児童14名の応募があり、いずれも6年生計47名が参加してくれました。

8月4日・5日の2日間にわたって実施し、1日目の午前中はセンターの施設を見学し、考古学入門講座を聞いて郷土の歴史を学習、午後から2日目にかけては体験学習をしました。割れた土器の復元や拓本、また土器の文様を真似て粘土に付けたりという室内学習のほか、2日

日程表

第1日	8月4日(木)	第2日	8月5日(金)
10:00	開講式	10:00	体験学習(2)
10:20	センター施設見学		・火おこし
11:10	考古学入門講座		・土器を使った塩づくり
			・土器を使った煮炊き
12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	体験学習(1)	13:00	体験学習(3)
	・土器の復元		・土器を焼く
14:15	・土器の文様復元	14:30	古墳の見学
15:10	・拓本		・観音古墳の見学
15:55	明日の予定	15:50	閉講式
16:00	解散	16:00	解散

目は野外で火おこしから始めて土器を使った煮炊き・塩づくりをし、実際に昼食時に食べてみました。2日目の午後は、センターの近くにある観音古墳を見学しました。

今回の考古教室で、古代人の生活の一端を垣間見、郷土の歴史に一層興味をもってもらえればと思います。
(尾上 元規)



遺物実測室の見学



火おこし・煮炊き



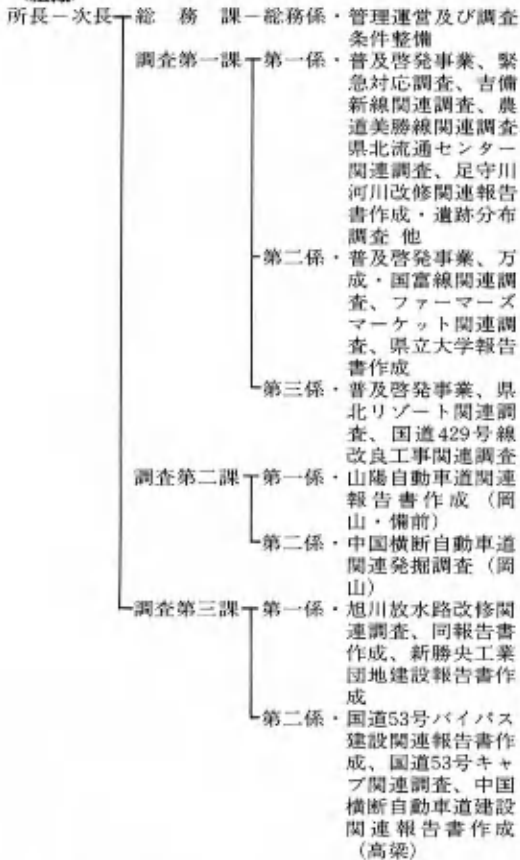
土器の復元



古墳の見学(観音古墳)

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (平成6年度)

＜組織＞



＜職員＞

所次	長	河本 清
総務課	長	葛原 克人
課長	長	丸尾 洋幸
総務係	課長補佐(係長)	杉田 卓美
	主	查 石井 善晴
	主	任 三宅 秀吉
	主	事 那須 一士・山崎 貴彦
		滝澤 幸隆・浅野 晋次

調査第一課

課長	正岡 睦夫
文化財保護主幹	浅倉 秀昭
第一係	課長補佐(係長) 松本 和男
	文化財保護主査 島崎 東・光永 真一
	文化財保護主任 宇垣 匡雅
	文化財保護主事 延堂 守・山本 晋也
	文化財保護主事 柴田 英樹
	主 氏平 昭則
	事 尾上 元規・杉山 一雄
第二係	課長補佐(係長) 岡田 博
	文化財保護主査 二宮 治夫・平井 泰男
	文化財保護主任 渡辺 武仁
	文化財保護主事 山田 明信・大柳 浩
	主 伊東 孝・宮野 義治
	事 久保恵里子
第三係	長 谷口 広幸・澁田 東美
文化財保護主任	岡本 寛久
主	逸見 優一・植月 康雅
事	物部 茂樹・樋口 雅夫
	岡本 泰典

調査第二課

課長	伊藤 晃
文化財保護主幹	下澤 公明
第一係	課長補佐(係長) 井上 弘
	文化財保護主査 長谷川 澄博
	文化財保護主任 植野 芳典・小林 関士
	文化財保護主事 田原 順・龜山 行雄
	主 大橋 雅也・澤山 孝之
	事 金田 善敬
第二係	課長補佐(係長) 平井 勝
	文化財保護主査 中野 雅美・三上 修二
	文化財保護主任 小延 祥夫
	文化財保護主事 東呂木 博・大村 俊幸
	主 山本 昌彦
	事 高見 生朗・蛭原 啓介

調査第三課

課長	柳瀬 昭彦
文化財保護主幹	福田 正継
第一係	課長補佐(係長) 山崎 康平
	文化財保護主任 小畑 良治
	文化財保護主事 弘田 和司・高田恭一郎
	主 根木 智宏
第二係	長 江見 正己
文化財保護主査	大森 善市・内藤 善史
文化財保護主任	石田 容一

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (086) 293-3211

◎交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より神道山行終点下車徒歩5分

